

第4章 総合的な学習の時間

第1 本指導実践事例集の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料は、小学校学習指導要領、「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」（文部科学省）、埼玉県小学校教育課程編成要領、同指導資料、及び同評価資料の趣旨及び内容を踏まえ、編集した。

総合的な学習の時間の改訂の趣旨を実現するためには、次の点に留意しながら、創意工夫を重ねていくことが大切である。

- (1) 問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究的な学習とすること
- (2) 他者と協同して課題を解決する協同的な学習とすること
- (3) 体験活動を重視すること
- (4) 思考力・判断力・表現力等を育む言語活動の充実を図ること
- (5) 各教科等との関連を意識した学習活動を展開すること

本資料では、この中から特に、(1)の「探究的な学習」と(4)の「言語活動の充実」に焦点を当て、具体的な指導実践事例を掲載し、各学校において行われる授業の構想と展開を図る際の資料となる内容を示した。なお、(2)、(3)、(5)についても事例の中で関連させて取り扱うものとする。

2 取り上げた内容

本資料の構成と各事例の主なポイントは、以下のとおりである。

事例1 探究的な学習【課題の設定】 体験活動を通して学習対象に興味をもたせ、自ら課題を設定する力を育成する事例

児童が自らの課題をもつためには、意図的な働きかけを行い、学習対象との関わり方や出会わせ方などを工夫することが大切である。本事例は、地域の伝統芸能の体験活動を通して、学習対象に興味をもたせて課題を設定することにより、より主体的、創造的、協同的な活動が展開できるよう工夫されている。また、中学校との連携を図り、小学校から中学校への継続・発展を大切にしている。

事例2 探究的な学習【情報の収集】 観察・実験やインタビューを通して、意図的に必要な情報を収集する力を育成する事例

情報の収集においては、児童が自発的に学習活動に取り組めるよう展開を工夫することが大切である。本事例は、身近な地域の自然と繰り返し関わることや体験を通じた感覚的な情報の収集を大切にし、課題解決のために目的をもって情報収集を行うことを重視している。

事例3 探究的な学習【整理・分析】 情報を整理・分析して多面的に思考する力を育成する事例

情報の整理・分析においては、多様な方法で収集した情報を整理したり分析したりして、思考する活動へと高めていくことが大切である。本事例は、交流会で得た情報を、「比較」「分類」「序列化」「関連付け」などを通して思考する活動を重視し、情報の整理・分析の具体的な方法を取り上げている。また、道徳の時間との関連を図り、自己の生き方につなげて考えられるようになっている。

事例4 探究的な学習【まとめ・表現】 他教科との関連を図り、相手や目的に応じて表現する力を育成する事例

調べたことや自分の考えをまとめ・表現する活動では、相手意識や目的意識を明確にすることが大切である。本事例は、国語科を中心とし、各教科等で身に付けた表現方法を活用することを大切にしている。また、児童の思考を深め、探究活動を連続・発展させるために、これまでの学習活動における情報を整理し、自分の考えを一層明らかにする効果的な振り返りカードについて取り上げている。

事例5 言語活動の充実 多様な話し合い活動を中心とした協同的な学習を通して、課題を解決する力を育成する事例

思考力・判断力・表現力等の育成を図るためには、分析したりまとめたりする言語活動を問題の解決や探究活動の過程に位置付けることが大切である。本事例は、観察や体験活動を行ったときの記録や、それを活用した情報交換、学習の方向性を見いだすための話し合い活動を多く取り上げている。また、話し合い活動では、個の考えをつないでいくことで、物事を様々な角度からとらえる力が育成されるよう工夫されている。

3 活用にあたっての配慮事項

- (1) 埼玉県小学校教育課程編成要領、同指導資料、同評価資料と併せて活用する
紙面の都合により、総合的な学習の時間のねらい等の基本的な事項、学習指導案や評価等の詳細については、省略されている。教育課程編成要領等と併用して活用いただきたい。
- (2) 更に充実した総合的な学習の時間を創造する
本資料を参考にして、各学校や地域の実態に応じ、総合的な学習の時間の更なる充実を図ることが大切である。その際、実践事例のポイントを踏まえ、各学校の課題を解決するための参考として活用いただきたい。

第2 実践事例

事例1 探究的な学習【課題の設定】体験活動を通して学習対象に興味をもたせ、自ら課題を設定する力を育成する事例

【本実践例のポイント】

- 地域に伝わる伝統芸能を十分体験させ、伝統や文化に興味をもたせて課題を設定することにより、より主体的、創造的、協同的な活動が展開される。
- 指導内容等において中学校と連携を図り、小学校から中学校への継続・発展を考慮した学習を進めている。

1 単元名 ふるさと発見！「歴史・文化の旅」「ふるさとの未来」(50時間) 第6学年

2 単元目標

昔から身近にある歴史的・文化的な建造物や行事等を調べたり、地域の人たちと触れ合ったりする活動を通して、そのものがもっている歴史的価値や先人の思いを理解させ、それらを大切にしていこうとする心を育てる。

3 単元について

(1) 単元設定の理由

地域の伝統文化を生かし、それらを体験したり地域の人々とかかわったりする学習を行うとともに、自ら課題を設定し解決していくことで、より主体的、創造的、協同的に学習に取り組む態度を育てることができる。また、こうした学習を通して、地域での自己の役割について思考を深め、実践的な態度を養うことができると考え、本単元を設定した。

(2) 児童の実態

児童はこれまで、いろいろな体験を通し地域に目を向けた学習を行ってきた。秩父市高篠地区には、地域の伝統文化として「矢行地の獅子舞」「恒持神社の神楽」等が継承されている。また、札所や各地区の祭りも多く残されている。しかし、秩父屋台囃子の太鼓をたたける児童はいるが、「矢行地の獅子舞」にかかわっている児童はほとんどいない。また、地区内に多くの重要な文化財があることに気付いている児童は少ない。そこで、本単元を通して、地域の一員として伝統芸能を守るものの大切さに気付かせ、伝統芸能や祭りなどに進んで参加する気持ちがもてるようにしていきたい。

(3) 教材について

矢行地獅子舞は、天保12年ごろより、地区の若者たちにより伝承されてきた。現在でも、年2回地区の神社に奉納されている。本単元では、最初に全員で獅子舞を体験することにより、伝統芸能を守るものの大切さや継承する人々が減少している地域の実態に気付かせ、課題意識をもたせていきたい。また、地域の一員としての自己の役割について考え、実践できる態度を育成していきたい。

(4) 小中連携について

同じ地区内に中学校1校小学校1校ということもありほとんどの児童が、9年間生活を一緒にしている。平成17年度より、小中連携の取組を行っているが、毎年実施する教職員の連絡会議の場では、年間指導計画を見直したり、情報交換を行ったりして様々な連携を図っている。矢行地獅子舞は4年前までは中学校で取り組んでいたが、年間指導計画の見直し等で、現在では小学校で取り組んでいる。本単元でも、中学生と一緒に活動する場を設け、総合的な学習の時間における小中7年間の見直しをもった取組を実施している。今回の学習も、中学1年生「秩父探訪」の単元に結び付いており、学習の継続・発展が図られている。

4 単元の評価規準

関心・態度・意欲	思考・判断・表現	技能	知識・理解
①友達や地域の人々に積極的にかかわりながら、課題を解決しようとしている。 ②「獅子舞」を体験することにより、地域の一員であることを自覚し、行動しようとしている。	①課題を解決するために、必要な資料を集めたり分類・整理したりして自分の考えを表現している。 ②友達の考えを参考にしたり、友達と協力したりして課題を解決している。	①地域に残る歴史・文化に関心を持ち、地域の一員として伝統文化の練習に取り組むことができる。 ②既習の学習を生かして課題を解決することができる。	①伝統芸能の大切さを理解している。 ②ふるさとに伝統芸能等を残すためには、地区の人々が協力し支え合っていくことが大切であることが分かる。

5 単元の指導計画・評価計画

過程	○主な学習内容・学習活動	・指導上の留意点 ★評価規準（評価方法）
課題の設定 (20)	<p>○オリエンテーションを行う。</p> <p>・単元のねらい、内容や計画について話を聞く。</p> <p>○「矢行地獅子舞」に出会う。【実践例1・ア】</p> <p>・獅子舞を鑑賞する。</p> <p>・保存会の人から、獅子舞の歴史や道具などの話を聞く。 【実践例1・イ】</p> <p>○「矢行地獅子舞」を体験する。 【実践例1・ウ】</p> <p>・獅子、花がさ、歌、笛にわかれて練習し技能を身に付ける。</p> <p>・中学生とも一緒に練習し、指導してもらう。</p> <p>・グループに分かれて発表する。</p> <p>・感動体験発表会で校内発表する。</p> <p>○学習計画を立てる。 【実践例2、実践例3】</p> <p>・ふるさとの「昔からあるもの」から、自分が調べてみたい内容をまとめ、学習計画を立てる。</p>	<p>・単元の流れについて、資料をもとに説明する。</p> <p>・地区に残る伝統芸能や祭りなどについて振り返らせる。</p> <p>・獅子舞を鑑賞したり、歴史や道具などの話を聞いたりして、疑問点や興味のあることについて質問させる。</p> <p>・獅子、花がさ、歌、笛の中から、自分が興味をもったところを中心に体験させる。</p> <p>・中学校と連携を図り、中学生にもポイントなど教えてもらうようにする。</p> <p>・獅子舞の簡単な技能を身に付けさせ、校内発表をできるようにする。</p> <p>★技能①（観察、表情、行動）</p> <p>★関心・意欲・態度②（行動、観察記録）</p> <p>・ウェビングを活用しイメージを広げることで、テーマをより多面的にとらえたり、細分化して具体的にとらえたりしながら課題を見いだすことができるようにする。</p> <p>・体験を通して明らかになった問題を序列化して整理することで、より追究した課題を見いださせる。</p>
*情報の収集、整理・分析（20）まとめ・表現（10）（略）		

6 実践例

(1) 【実践例1】対象へのあこがれから課題を設定する

地域の伝統芸能やそれに携わる人との出会いは、児童に「自分も深くかかわりたい」「その人に近付きたい」という対象へのあこがれを抱かせる。対象のよさや価値を実感することで課題意識を高めることができる。

【ポイント】 探究的な調査が可能な対象かどうか吟味することが大切である。例えば、地域の中には、「地域が守り続けている伝統」「地域の文化的財産」「伝統や文化を支える人々」「地域を支える産業」等がある。

伝統芸能の体験活動

ア 「矢行地獅子舞」に出会う



矢行地獅子舞はどんな獅子舞なのか、実際に鑑賞する。

体がうきうきしてくるぞ。ほくも踊ってみたいな。



一つ一つの道具についての説明を聞く。地域の人たちが大事にしてきた様子がわかる。

江戸時代から大切に使われているんだ。

「百聞は一見にしかず」。まずは、地域の伝統芸能を実際に見ることが、興味の継続につながり、地域の行事にも目を向けることができるようになる。更に、他の伝統芸能等にも目を向けるきっかけとなってほしい。

イ 保存会の人から思いや願いを聞く



・獅子舞に対する思い、続けることの大切さ、後継者不足等の話を保存会の会長さんからうかがう。

自分たちに何ができるだろう。

続けていって大変なんだ。

お年寄りばかりだな。若い人はいないのかな。

獅子舞をいつまでも継続していきたい、若い人たちに参加してほしいという思いや願いを児童にしっかり受け止めるさせることにより、地域に残る伝統芸能や行事に今後かかわっていききたいという気持ちが少しでももてるようになることを期待する。

ウ 「矢行地獅子舞」を体験する

(○児童 ●教師 ☆保存会)

獅子	花がさ	歌	笛
<p>○太鼓、獅子の動きを覚える。</p> <p>☆太鼓と動きを指導する。</p> <p>●太鼓の数に限りがあるので、スムーズに体験できるようにする。</p> <p>頭をしっかりとひるぞ。太鼓のリズムも早く覚えたいな。</p>	<p>○ささらのリズムを覚える。</p> <p>☆上から下にリズムよく、動かすよう指導する。</p> <p>●動きが単調なので、興味が継続できるよう支援する。</p> <p>動きは簡単だけど、リズムを取るの思ったより難しいな。</p>	<p>○お囃子の歌の部分を担当し、覚えて歌う。</p> <p>☆楽譜がないので、口伝えで覚えさせる。</p> <p>●節回しが変わってくるときがあるので、しっかり聞いて覚えさせる。</p> <p>お腹からしっかり声を出すといいんだな。</p>	<p>○横笛の曲を楽譜に起こしたものを、リコーダーで演奏する。</p> <p>☆楽譜をもとに指導する。</p> <p>●児童同士、教え合いながら取り組めるよう支援する。</p> <p>音はすぐでるけど、覚えるのは大変だ。</p>

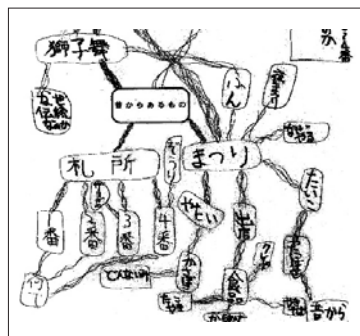
児童の興味・関心を大切に体験したいパートの希望をとる。花がさ・歌・笛はローテーションで三つの体験をさせることにより、興味の継続を図ることができた。身近な伝統芸能に、より積極的に取り組む気持ちをもたせたいと考え、獅子の体験は、短時間だが、全員の児童が体験できた。「獅子舞」をより身近に感じることができ、教え合いながら楽しんで活動することができた。

(2) 【実践例2】 ウェビングでイメージを広げて課題を設定する

ウェビングを活用しイメージを広げることで、児童はテーマを多面的にとら

えたり、細分化して具体的にとらえたりしながら課題を見いだしていくことができる。

体験をもとにして、中心テーマを決め、ウェビングで自分の中のイメージを広げていく。その後、完成したウェビング図を分析したり、友達の考えと比較したりしながら課題を明確にしていく。イメージを広げていくには有効だが、課題を絞り込むのは難しい児童もいた。



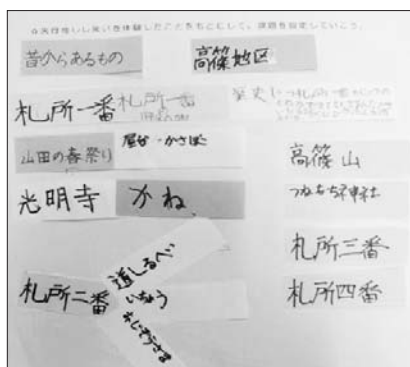
【ポイント】

- ウェビング図の分析を行うときは、明らかになった問題から課題を設定し、細分化した問題から課題を見いだすことができるようにする。
- ウェビング図を基にした話し合いでは、他者との考えと比較する中で、問題の共有化がなされ、課題意識の高まりが期待される。

(3) 【実践例3】 問題を序列化して課題を設定する

体験を通して明らかになった問題を序列化して整理することで、問題が焦点化され、課題を見いだしやすくなる。

<序列化を取り入れた課題の設定・付箋を利用して>



カードやフリップに問題（課題候補）を取り出し、視点を決め、視点に沿って序列化する。付箋を動かしながら考えることで、課題に深く迫ることができ、課題を設定していくのにわかりやすい。

【ポイント】

- 課題の候補の取り出しは、キーワード化して表す。
- 序列化するための視点としては、テーマとの整合性はとれているか、実現可能かどうか、社会的な価値があるかを確認させる。
- 序列化する際には、話し合いの様子が可視化できるようにカードや板書などを工夫し、課題を明確化させる。付箋を活用すると、序列化しやすい。

(4) 実践後の児童の変容

獅子舞保存会の方の熱心な指導により、一層積極的に取り組むことができ、「次の練習までにはできるようにしたい。」「発表会の獅子に選ばれるようがんばる。」など、意欲的に行動する姿が多く見られた。獅子舞の体験をしたり、礼所2番まで見学に行ったりすることにより、次の課題設定において地域に残るものについて具体的な課題を考えることができた。

事例2 探究的な学習「情報の収集」観察・実験やインタビューを通して、必要な情報を意図的に収集する力を育成する事例

【本実践例のポイント】

- 身近な地域の自然に視点を換え繰り返しかわることを通して、探究的な学習活動を重視した単元計画を作成する。
- 体験を通じた感覚的な情報の収集を大切に、課題解決のために目的をもって情報収集を行う学習活動を充実させる。

1 単元名 ふるさと里山たんけん隊！（40時間）第4学年

2 単元目標

身近な地域の自然に繰り返し関わり調べる活動を通して、地域の自然環境への関心や理解を深めるとともに、様々な人との交流を通して、地域の自然環境と自分との関わりについて考え、実践することができる。

3 単元について

(1) 単元設定の理由

本校の回りには武蔵野の雑木林が存在する。様々な生き物が生息し、時間や季節に合わせた生き物の営みが発見できる場所である。また、この雑木林は、農林用として人為的に作られ活用された歴史的背景をもつことから、人と自然の共存へ考えを広げることで、児童の探究的な学習を充実させることが可能である。身近な自然についての理解を深め、自然を愛する心を養い、環境の保全に主体的に関わっていこうとする態度を育成できると考え、本単元を設定した。

(2) 児童の実態（略）

(3) 教材について

本校の周辺には新田開発で作られた雑木林や地割が存在し、昔ながらの自然の面影を残している。野鳥や植物等の種類も多く、市民グループの手で調査や整備が行われたり、自然と親しむ場として保存されたりしてきた。地域の昔を知る人や専門家の協力を得ながら関わりを深めていく活動は、地域の価値を見いだし、児童のふるさと意識へつながるものと考えられる。また、社会科では「先人のはたらき」でこの地域開拓の工夫や努力を扱い、学習の広がりが期待できる。

4 単元の評価規準（略）

5 単元の指導計画・評価計画

小単元	学習過程	学習活動	指導上の留意点
自然が 里山の ひみつを 発見しよう (25)	課題設定	○雑木林に行き、自然探しをする。 ○自然と触れ合う活動やゲストティーチャーの話を聞く。 ①ネイチャーゲーム ②落ち葉ボックス ③環境の変化 ○自分の課題を設定し、課題別にグループをつくる。 ○調べる方法や手順などを考え、学習計画を立てる。	・雑木林（里山）についてイメージマップに表し、予想をもたせる。 ・KJ法的な手法により、気付きや疑問を整理して自分の課題を見いだしさせる。 ・時間軸や空間軸での比較ができるよう、活動日を工夫して計画しておく。
	情報収集	○課題について、様々な方法で調べる。 ・土の違いを見付けようグループ …観察・実験による調査 【実践例1】 ・めずらしい生き物を調べようグループ…フリップボードによるインタビュー 【実践例2】	
自然が 人が つくるの？ (10)	課題設定	○2枚の写真を比べ、里山と人の関わりについて考える。	・管理された雑木林と放置された雑木林の写真を比較し、理由を考えさせる。 ・雑木林は人が管理している自然であることに気付かせる。
	情報収集	○里山と人の関わりで疑問に思ったことを地域の農家へインタビューする。 ・昔の様子や里山の利用…インタビューの計画 【実践例3】	
自分 できる ことは？ (5)	まとめ・表現	○分かったことや思ったことを伝え合う。 ○雑木林の保全活動に参加し、考えたことを作文に書く。	・友達や地域の人と協同する場を設ける。
	整理・分析	○地域での雑木林の保全に努めている人の話を聞き、自然に対する思いや願いを知る。 ○今までの活動を通して感じた里山の魅力についてまとめ今後の自分との関わりについてできることを実践する。	
自分 できる ことは？ (5)	まとめ・表現	○地域での雑木林の保全に努めている人の話を聞き、自然に対する思いや願いを知る。	・人の思いや願いを知ることで、今後の自分の実践への意欲を高めるようにする。 ・イメージマップを振り返り、里山に対する見方や考え方の変化に気付かせる。
	整理・分析	○今までの活動を通して感じた里山の魅力についてまとめ今後の自分との関わりについてできることを実践する。	

6 実践例

(1) 小单元「自然がいっぱい？里山のひみつを発見しよう」

様々な共通体験から身近な自然について課題をもち、多様な方法により情報収集を行う。

【実践例1】観察や実験を通して必要な情報を収集する

土の違いを見つけようグループ

【比較による調査】

地域の土壌調査において五感や指標生物、能力実験で測定する。子どもが考えた方法に助言し、実際にできる方法で、客観性をもたせることに留意する。

雑木林の土の中には、カブトムシの幼虫などたくさんの生き物がいるんだね。



A・B・C地点の土を比べてみると、違いがたくさんあるね。雑木林の土には、葉が小さくなったものが混じっているよ。

	A	B	C
生き物の数	カブトムシの幼虫 167匹	カブトムシの幼虫 153匹	カブトムシの幼虫 32匹
手ざわり	ふかふか	さらさら	さらさら
色	こい茶色	茶色	はいろ
かたさ	やわらかい(軽い)	やわらかい	少しかたい
土のつづ	つづてはなくて葉っぱ	細かい	小さい
その他	カブトムシの幼虫が	カブトムシの幼虫が	小さい石が多い

3つの土を比べて、こんなちがいでびっくりしました。AやBは、いい土がいて、Cはあまりいい土じゃなかった。AやBが育つ場所のは、ますますいい土は葉っぱの多いから多いのでAとBの土に、たくさん虫がいるのだとわかりました。

科学的な方法による観察、実験を通して、客観的なデータを手に入れることができる。自分の考えを明確にするとともに、より説得力のある内容へ高めていき、児童は自信をもって提案する。さらに、「雑木林の土が良い土ならば植物がよく育つのではないか。」という問いを見だし、活動の広がりが見られる。

良い土は、植物が育つ土…？

【ポイント】

○観察の目的

- ・土を比較し、良い土と悪い土の違いを見付ける。

○観察方法

- ・観察場所は1㎡の広さ、3か所。
- ・生き物の数を調べる。
- ・手触り、色、堅さ、土のつぶの大きさや様子を見る。
- ・吸着能力と保水能力の実験を行う。

○観察方法の工夫

- ・土壌を詳しく調べるために、博物館の先生に実験方法(吸着能力と保水能力)を教えてもらうなど、専門的な知識のある方の助言を得る。

○データの信憑性

- ・観察や実験は何度か行い、比較したり平均値などを求めたりすることも大切である。

【種まき実験で土壌の違いを確認】

今までの経験から、良い土には栄養があり、植物がよく育つという仮説を立て、実験することにする。4年生の理科では、条件制御について学習していないため、同じ場所に置き、日光・水・温度の条件を同じにすることを助言する。

【1回目】

腐葉土の表面は、落ち葉の大きな状態が残っているため、水やりが難しく、うまくいかない。

→結果がよくわからず、失敗。

【2回目】

同じ場所で深さの違う土も用意する。種の数やまき方もそろえたが、確実な結果を出すことはできない。

雑木林で、細かい葉っぱの多い土が、一番大きくなっているかな。



植物を育てる力の違いは明らかにできなかったが、場所の様子や観察・実験結果を表で整理し比較することで、雑木林の土は生き物が多く活動していること、細かい葉が混じっていることをまとめている。理科の学習を生かし、様々な視点で調べることにより、自分の考えを確かなものにすることができる。

【ポイント】

○実験の目的

- ・観察場所の土に植物の種をまき、生長の違いを調べ、良い土と栄養の関係を明らかにする。

○実験方法

- ・観察場所(3か所)から、深さの違う土を用意する。
- ・ダイコンの種をまく。
- ・発芽後の生長の様子を毎日記録する。

○実験方法の工夫

- ・土の深さにより土壌の質も変わることを考慮する。
- ・失敗したら再度実験する。

○教科との関連

- ・理科の「植物を育てよう」との関連を図る。

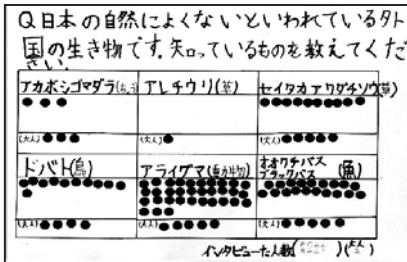
【実践例2】 フリップボードで情報を収集する

めずらしい生き物をさがそうグループ

フリップボードを提示してインタビューをする方法は、意識調査をする上で、質問内容が伝わりやすく、短時間で回答が得られるため相手に迷惑をかけず、児童にとって取り組みやすい方法である。

【 フリップボードを提示してインタビュー 】

地域の自然によくない影響を与える外来種をどのくらい知っているのか、調査することにする。6種類をあげ、丸をつけてもらう。



日本の自然によくないといわれている生き物です。外国から来ました。知っていましたか？



【 フリップボードを伝言板にして情報収集 】

地球温暖化の影響で北上傾向にある生き物の情報を集めるため、フリップボードを伝言板にして図書室と教室に置くことにする。

内容が難しく、意図が伝わりにくかったが、伝言板により「ツマグロヒョウモン」「クマゼミ」の情報を得ることができた。

【ポイント】

○フリップボードの提示

- ・聞きたいことを端的に表し、答えやすい質問を考える。
- ・「外来種」のように、難しい言葉の意味は、インタビューのときに説明を加えるようにする。

○フリップボードの工夫

- ・集計表をフリップボードと一体化しておく。答え方は、表の中に○を付けてもらう方法にしたため、結果が一目瞭然で集計もしやすい。

○教科との関連

- ・国語単元「大事なことを落とさずに聞こう」(必要な事柄について調べ、要点をメモすること)などの関連を図る。

(2) 小単元「自然って人がつくるの？里山の昔を調べよう」

里山と人との関わりについて疑問に思ったことをもとに課題をもち、インタビューで情報収集を行う。

【実践例3】 インタビュー前にチェックリストで確認して情報を収集する

昔の様子や里山の利用について調べる

【 計画を立ててインタビュー 】

インタビューのポイントをおさえたり、インタビュー活動の準備を計画的に行ったりすることで、専門的な立場の人の知識や経験、努力や工夫など、必要な情報を相手から直接得ることができる。国語科との関連も図り、今回は、全員がインタビューする方法で情報収集を行う。

[インタビュー前のチェックリスト]

チェック項目	チェック欄
① 質問する目的が説明できる	
② 質問する内容が整理してある。	
③ 質問者、記録者などの役割を決めてある。	
④ 記録用紙、カメラ等の取材道具の準備ができている。	
⑤ 訪問先に予約をとってある。	
⑥ 訪問する相手の名前が言える。	
⑦ 訪問する相手に質問する内容を伝えてある。	
⑧ 訪問先の行き方や費用を確認してある。	

[学び方ブック]

② インタビューをしましょう。

- ① あいさつ (インタビューへのお礼) を言う。
- ② 自己しょうかいをする。
- ③ インタビューの目的を説明する。
- ④ インタビューを始める。
 - ・質問をはっきりと伝える。
 - ・わからないことは聞き直す。
- ⑤ お礼をしっかりと言う。

— わかったことやかんそうも付けくわえてお礼をいしましょう。 —

インタビューは直接相手と会うことから、児童は緊張しながら活動する。事前の調整や準備が必要であるが、専門的な立場の人の知識や経験、努力や工夫などに直接触れ、相手の反応を確かめながら交流することにつながり、児童の積極的な活動の場として期待できる。

【ポイント】

○インタビューの目的

- ・何を知るためにインタビューするのか、説明できるようにしておく。

○内容の再検討

- ・訪問前にインタビューメモを作成し、内容を吟味しておく。インタビューの練習も行い、質問の意図や内容が相手に伝わるかチェックする。

○事前の調整と事後の挨拶

- ・訪問先に趣旨を伝え、事前に連絡調整を行う。活動後、挨拶に伺い児童の様子を聞く。

○教科との関連

- ・国語単元「大事なことを落とさずに聞こう」(必要な事柄について調べ、要点をメモすること)などの関連を図る。

事例3 探究的な学習「整理・分析」 情報を整理・分析して多面的に思考する力を育成する事例

【本実践例のポイント】

- 交流会で得た情報を、「比較」「分類」「序列化」「関連付け」などを通して思考する活動を重視し、情報の整理・分析の具体的な方法を習得できるようにする。
- 道徳の時間との関連を図り、自己の生き方への考えを深めていくことにつなげる。

1 単元名 共に生きるやさしい心～高齢者との触れ合い～（35時間）第4学年

2 単元目標

- 高齢者と触れ合うという共通の目的のもと、体験活動や、情報交換・意見交流をしながら協同的に学び、課題を解決することができる。
- 生きていることの素晴らしさや生命の尊さに気付き、自分を含めた様々な人々がそれぞれ生き甲斐をもって生きていることを理解することができる。

3 単元について

(1) 単元設定の理由

近年、核家族化により児童にとって高齢者と身近に触れ合う機会が減ってきている。今後、少子高齢化が進む中で、高齢者を含めすべての人の存在の大切さを知り、共に幸せに暮らす社会の実現に貢献しようという心を育みたいと考え、本単元を設定した。

(2) 児童の実態

児童は、低学年時に生活科で高齢者に昔遊びを教えてもらう活動に取り組んだ。その活動を通して「もっとおじいちゃん、おばあちゃんたちと触れ合いたい」という思いをもつことができた。しかし、祖父母と同居している児童は少なく、高齢者との交流経験も少ない。本単元では、実際に高齢者の方々の生活の様子や思いや願いに触れる機会を数多く設定することで、共に幸せに暮らす社会をつくることの大切さに気付くことができると考えた。

(3) 教材について

地域内には、公民館や高齢者福祉施設がある。公民館では多くの高齢者が文化活動に元気に取り組み、また、高齢者福祉施設では、さまざまな立場の高齢者が共に生活している。本単元では、これらの身近な施設を訪れ、高齢者と直接触れ合うことを通して、相手の立場に立って考え、高齢者を尊敬する気持ちをもたせていく。

また、施設訪問や交流などの体験活動を通しての個々の思いや気付きを、友達同士で交流し、お互いに共通認識をもって取り組むことで、自らの考えを深めていくことができるようにする。そのために、児童がどのような情報をどの程度収集しているかを的確に把握し、思考していく活動へと高めていけるように支援を行う。

4 単元の評価規準

課題発見力	課題解決力	表現伝達力	生きる力
身近な高齢者について知っていることを紹介するなど、高齢者体験活動、施設訪問を通して、課題を設定している。	様々な方法を通して、情報を収集し、友達と考えを出し合いながら、見通しをもって課題を解決している。	目的に応じた表現方法を工夫して、自分が伝えたいことを効果的に表現している。	高齢者との触れ合いを通し、自分自身の生活を振り返り、高齢者を尊敬し、共に幸せに暮らす社会の大切さについて考えている。

5 単元の指導計画・評価計画

過程	主な学習活動	教師の支援 ☆評価規準（評価方法）	道徳・各教科との関連
ふれ る (4)	○オリエンテーション ○自分のおじいちゃんおばあちゃんを紹介しよう。（CM作り） ○高齢者擬似体験をしよう。 ○高齢者にインタビューしてみよう。	・単元のねらいを説明し、活動の見通しをもたせる。 ・祖父母が遠隔地に住んでいることも考慮し、取材期間を十分に確保する。 ・協力機関との連携、活動に必要な場所・時間の確保 ☆課題発見力（発表・感想用紙） ・学校応援団に連絡し、地域の高齢者を招く。 ・話の聞き方やインタビューの仕方などのマナーを指導する。 ☆課題発見力（ワークシート）	〈道徳〉4-(3)家族愛 〈道徳〉4-(5)郷土愛（彩の国の道徳「ふるさとの伝統を大切にしよう」）

<p>つかむ(8)</p>	<p>○高齢者がいる施設を見学しよう。</p> <p>○これまでの学習で分かったことを整理し、これから取り組むことを考えよう。</p> <p>【実践例1】</p>	<p>・公民館や高齢者福祉施設を訪問し、施設の概要の説明を聞いたり、高齢者の様子を見学したりする。</p> <p>☆課題発見力 (話し合いの様子を観察、ワークシート)</p> <p>・児童一人一人の感じ方は様々であるので、これまでの学習を振り返り、考えを交流する場を設定し、今後の活動に対する共通認識をもたせる。</p> <p>☆課題発見力 (話し合いの様子を観察、グループでのまとめ)</p>	<p>〈社会〉見沼代用水をひく(先人の暮らしと知恵)</p>
<p>施設の高齢者と楽しく触れ合って、喜んでもらおう。</p>			
<p>調べる(18)</p>	<p>○施設で高齢者と触れ合う計画を立てよう。</p> <p>【実践例2】</p> <p>○施設を訪問し、高齢者との交流会を開こう。</p> <p>○交流会の内容を振り返り、もっとよりよく触れ合うため、2回目の交流会の計画を立てよう。</p> <p>【実践例3】</p> <p>○施設を訪問し、高齢者との2回目の交流会を開こう。</p> <p>○2回の交流会の内容を振り返り、自分の考えを整理する。</p> <p>【実践例4】</p>	<p>・実現性を考慮しながら高齢者とどんなことをしてみたいか考え、交流の計画を立てさせる。</p> <p>☆課題解決力・生きる力 (話し合いの様子を観察、座標軸シート)</p> <p>・話し合いで決まったことをもとに、交流会を行う。</p> <p>・交流会でうまくいった点、うまくいかなかった点を踏まえて、どんな方法だとよりよい触れ合いができるのか、メリット、デメリットを考えながら計画を立てさせる。</p> <p>☆課題解決力・生きる力 (話し合いの様子を観察、グループでのまとめ)</p> <p>・前回の訪問の経験を生かし、高齢者の立場に立った触れ合いができるようにさせる。</p> <p>・交流会を通して高齢者に対する自分の考えがどのように変容したか事前、事後で振り返らせる。</p> <p>☆課題解決力・生きる力(ワークシート)</p>	<p>〈道徳〉2-(2) 思いやり・親切</p> <p>〈道徳〉2-(4) 尊敬・感謝</p>
<p>まとめる・広げる(5) (略)</p>			

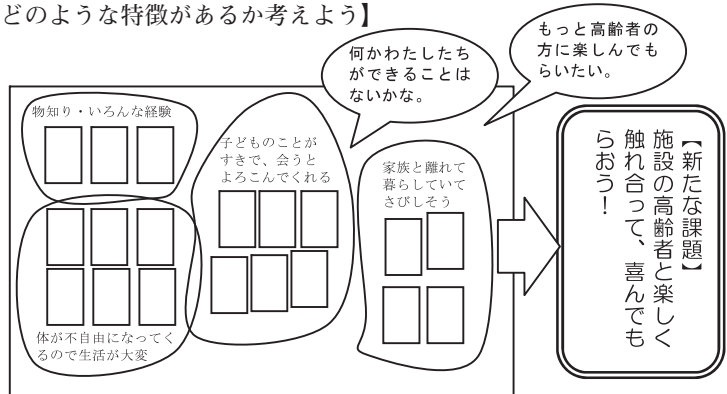
6 実践例

(1) 【実践例1】カードで整理・分析

体験活動等で集めた情報をカードに取り出し、グループでまとまりごとに分類していく。このように情報を焦点化し整理することで、各情報を関連付けてとらえたり、そこから新たな課題を導き出したりすることができる。

【これまでに学習したことをもとに、高齢者にはどのような特徴があるか考えよう】

- 手順
- 1 分かったことや感じたことをカードに書き出す。(1枚のカードに1つ書く。)
 - 2 同じ考えのカードの上に自分のカードを重ねながら仲間分けをする。
 - 3 まとまりごとにタイトルを付ける。
 - 4 整理したまとまりから、新たな課題を見出す。



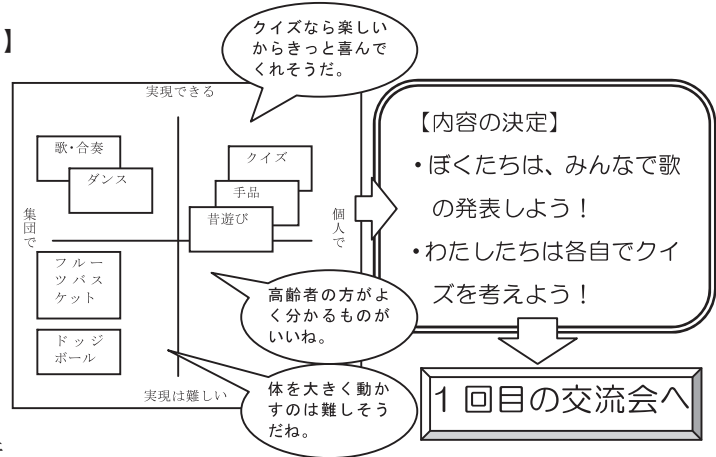
(2) 【実践例2】座標軸を用いたシートで整理・分析

あらかじめ設定した座標軸を使って整理することで、視点に沿った考えが促され、情報を可視化しながら整理することができる。

【施設で高齢者と触れ合う交流会の計画を立てよう】

手順

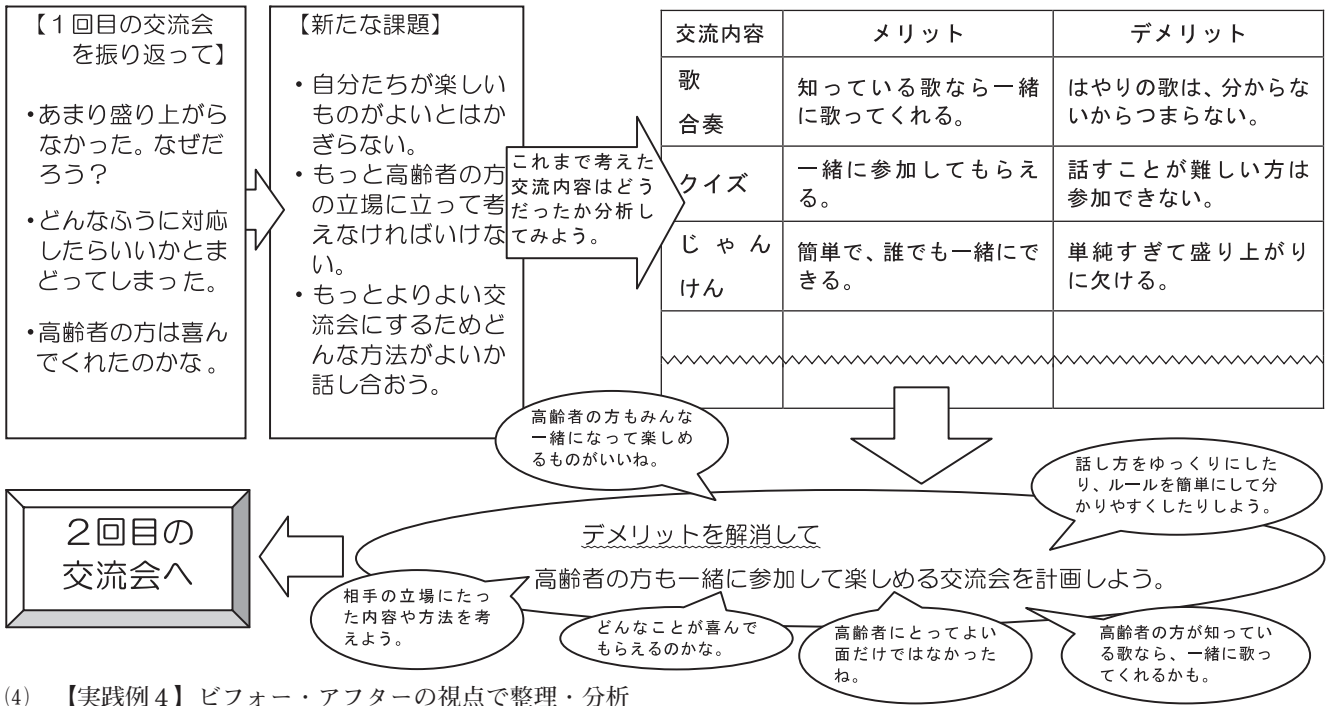
- 1 交流会でやってみたいことをカードに書き出す。
- 2 「個人」か「集団」、「実現可能」か「難しい」という座標軸を設定する。
- 3 座標軸を用いたシートに、話し合いながらカードを貼り、整理していく。
- 4 よいと思った方法を取り入れ、交流会の内容を決定する。



(3) 【実践例3】メリット・デメリットで整理・分析

メリットとデメリットの両面を考えると、質の高いアイデアや方法へと高めることができ、その後の活動の根拠を明らかにすることができる。

【もっとよりよく触れ合うために2回目の交流会の計画を立てよう】



(4) 【実践例4】ビフォー・アフターの視点で整理・分析

情報の収集や整理・分析を繰り返す中で、児童のものの見方や考え方は変化してくる。以前の自分と今の自分を振り返ることで、自らの変容を自覚し、自己評価の力へとつなげることができる。

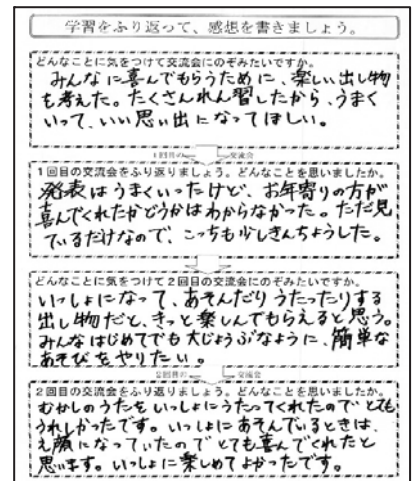
【交流会の前後で、自分の考えがどのように変わったか整理しよう】

〈ビフォー〉

- ・高齢者に喜んでもらうために、楽しいことをして交流したい。
- ・どうすれば高齢者の方が喜んでくれるかな。
- ・相手の立場に立った交流内容にして、ぜひ喜んでもらいたい。

〈アフター〉

- ・あまり喜んでもらえなかった。
- ・自分が楽しいことが喜んでくれるとはかぎらないことが分かった。
- ・体が不自由な方との交流は、分かりやすくして、一緒に楽しめるものがよいということが分かった。
- ・高齢者の方の事情を考え、相手の気持ちに沿って、接するようになっていきたい。



事例4 探究的な学習「まとめ・表現」 他教科との関連を図り、相手や目的に応じて表現する力を育成する事例

【本実践例のポイント】

- 調べたことや自分の考えをまとめ・表現する活動では、相手意識や目的意識を明確にすることが大切である。
- まとめ・表現の段階は、各教科等で身に付けた表現方法を（特に国語科で学習したことと関連を図り）活用することが大切である。
- 児童の思考を深め、探究活動を連続・発展させるためには、これまでの学習活動における情報を整理し、自分の考えを一層明らかにする振り返りカードを活用すると効果的である。

1 単元名 おいしいものいっぱい越谷（40時間）第3学年

2 単元目標

郷土の食べ物について調べたり、地域の人々と触れ合ったりする活動を通して、郷土の食べ物の特長やそれらに携わる人々の知恵や思いがあることに気付かせ、地域への誇りと愛着をもって生きていこうとする心を育てる。

3 単元について

(1) 単元設定の理由

食に関することは、児童にとって最も身近で意欲的に取り組む課題であり、課題解決における見学・調査・調理等の体験活動を通して、仲間と協力して活動する態度を育てることができる分野である。また、調べたことをまとめ・表現する際に、来年の3年生に教えることを目標にすることで、相手や目的に応じて表現する力を培うことができると考え本単元を設定した。さらに、地域の人々とかかわりをもつ活動が多いので、郷土の食べ物のよさを知るだけでなく、自己の食に関する意識を見直す絶好の機会になると考えた。

(2) 児童の実態（略）

(3) 教材について

本教材は、社会科の「私たちのくらしものをつくる仕事」で特産物のねぎやクワイについて学習して興味をもっている。また、毎年開かれる地域の産業フェスタにおいて、大きな鍋で調理された「鴨ねぎ鍋」を食べたり学校給食で「クワイご飯」を食べたりするので、児童の関心が高く課題設定が容易である。探究活動においては、市の産業振興課やJAの協力を得て実際に作って食べる活動や、近くの生産農家を訪ねて見学やインタビューすることができるので、地域の人々と関わり仲間と協力する力を育てることが期待できる。

さらに、他教科との関連を図ることにより、まとめ・表現する際には、国語単元「話し合って決めよう」「手紙を書こう」「説明のしかたを考えよう」、算数単元「見やすく整理して表そう」、社会単元「農家の仕事」「昔の道具」で学習したことを生かすことができたり、道徳4-(5)郷土愛「キラキラ光るあめ玉」（彩の国の道徳「みんななかよし」）を同じ時期に扱うことにより、地域を大切に思う気持ちにつなげることができる教材である。

4 単元の評価規準

A 学習方法に関すること	B 自分自身に関すること	C 他者や社会とのかかわりに関すること
①共通体験と越谷に関するウェビングから、自分の課題を発見し、設定する。 ②調査・体験・インタビュー・見学等を通して、情報を収集する。 ③分かったことを相手や目的に応じてまとめ、発表する。	①まとめを書くことにより、自分の考えをはっきりさせる。 ②地域への誇りと愛着をもつ。	①自分と地域とのつながりに気付き、地域と進んで関わる。 ②異なる意見や他者の考えがあることを認める。 ③調査したり、実際につくったり、実験して確かめたりする活動を友達と協力して行う。

5 単元の指導計画・評価計画

過程	学習活動	指導上の留意点 ◇まとめ・表現に関すること ☆評価規準	各教科等との関連
課題設定(8)	○オリエンテーション ・越谷に関するウェビング ・越谷の特産物調査と博士の話 ○課題決定 ○グループづくりと計画	・先輩の活動を参考に単元のイメージをつかませる。 ◇単元の最後に、2年生と保護者を招き発表会を開くこと知らせ、大まかな最終目標をもたせる。 ・ウェビングしたことを全体でまとめ、越谷の食に関する事に絞って計画する。☆A-①	社会科=農家の仕事 食育=郷土料理(学校給食)
情報	○自分の課題の解決に向けて情報を収集する。	・知りたいことをもとに活動計画を立てさせ、自分の目的を見失わないようにさせる。☆A-②	社会科=ねぎ農家見学

の収集 (5)	《課題例》 越谷の農作物 (クワイ・ねぎ・小松菜)、鴨ねぎ鍋、越谷の米、越谷手焼きせんべい等		
整理分析 (5)	○冬休みの活動計画を立てる。 ○中間発表と課題の見直し ・2学期と冬休みの成果発表 ・発表後の話し合い ・自分の課題を見直し 《見直した課題例》 クワイ・ねぎ料理を作る、小松菜農家の思い、鴨ねぎ鍋ができたわけ、越谷の米と他の米の食べ比べ、越谷手焼きせんべいの作り方、太郎衛もちを作る等	・児童の身近なものやことを調べたり、家の人に聞いたりすることを冬休みの宿題とする。 ◇一番伝えたいことと調べた方法も発表させ、いろいろな調べる方があることに気付くようにする。☆C-② ・調べたことを、実際に作ったり実験して確かめたりする活動ができるように課題の見直しをさせる。	国語「よい聞き手になろう」
情報の収集 (8)	○見直した課題を解決するための情報を収集 ・実験・見学・調査・料理 ・専門家の話・インタビュー等	・学区外の見学については、先方への事前連絡を取り安全面と礼儀面を指導し保護者の協力を得る。☆C-① ・料理体験は、安全面を考慮し専門家を招いたり、保護者の協力を得たりして作るようにする。☆C-③	社会「越谷市のようす」 国語「インタビュー」
整理分析 (4)	○調べたことの整理・分析	・順番にならべたり、比較したり、大切だと思うことや伝えたいことを整理させる。☆B-① ◇グラフや表に整理することのよさに気付かせる。	算数 「見やすく整理して表そう」
まとめ・表現 (10)	○発表内容の分担・招待状作成 ○自分の考えをまとめる。 【実践例1ア・イ・ウ】 ○2年生に発表【実践例2ア・イ】 ・発表後の反省【実践例3ア】 ○ゲスト(地域の人・保護者)に発表 ・お礼の手紙 ○単元全体のまとめと自己評価 【実践例3イ】	◇自分は何について調べ、誰に発信するのかを確認させ、伝えたい相手に分かりやすく知らせるための方法を考えて工夫するように助言する。☆A-③ ☆C-② ◇下級生を招き、教えるという目的意識をもたせる。 ・振り返ることは、自分の考えをはっきりさせることにつながることに気付かせる。☆B-② ◇お世話になった方々への感謝の気持ちを大切に。 ◇「学びのあしあと」に単元全体の成果と自己評価を書き込ませ、次年度に送る。	国語 「話し合って決めよう」「説明のしかたを考えよう」 道徳4-(5)郷土愛 「キラキラ光るあめ玉」 国語 「手紙を書こう」

6 実践例

- (1) 【実践例1】伝えたいことをはっきりさせてまとめ・表現する
ア パンフレットでまとめ・表現する

一番伝えたいことを見出しにした。

食べ物なので、明るい色づかいで、美味しいと感じるように書いた。

伝えたいことを大きく書いた。

写真や絵を描いて分かりやすくした。

ルビをふって、2年生でも読めるようにした。

目立つように枠で囲んだ。

【ポイント】

- 主張点を明確にする。
 - ・何を伝えたいのか、誰に伝えたいのかをはっきりさせる。
 - ・調べたことを丸写しにしない。
- 構成を考える。
 - ・内容を焦点化する。
 - ・見出しを決める。
 - ・内容にあった小見出しを付ける。
 - ・紙面のレイアウトを決める。
- 表現を工夫する。
 - ・見出し、タイトルは相手の心に訴える言葉で書く。
 - ・説明の文章は簡潔に分かりやすく書く。
 - ・表やグラフは、分かりやすい種類や大きさを、読み取りのポイントを目立たせる。
 - ・文字の大きさや誤字脱字に注意する。
 - ・強調する部分は目立つ色を使いなど工夫する。
 - ・写真、イラストは多すぎないように注意する。
- 国語単元「話し合って決めよう」と関連させる。

イ 新聞の形でまとめ・表現する

棒グラフに表す※算数

見出しの工夫 ※国語

【ポイント】

- 自分の考えの明確化
自分の考えを文章化することにより、自らの考えを一層明確にする。
- 主張点を強調
見出しは読み手をひきつけるため、比喩、体言止め、倒置法、語りかけなどをを用いる。 ※国語との関連
- 記事の優先順位の決定
- 社会・理科・算数などとの関連

ウ レポート形式で壁新聞にまとめ・表現する

越谷せんべいの大発見!

メンバー

レポートの要素と内容 (3年生のレベルに合わせた言葉) ※国語

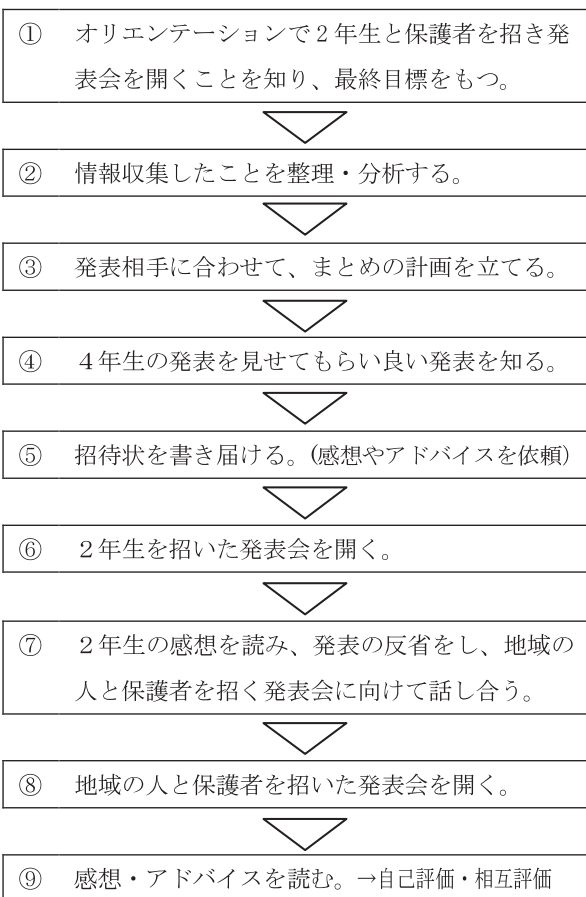
- 1 テーマ (題名)
- 2 動機 (調べたきっかけ)
- 3 目的・方法 (調べたこと・調べ方)
- 4 結果 (分かったこと)
- 5 考察 (伝えたいこと) (感想)

【ポイント】

- 目的や読み手に応じた工夫
特定の人に提出する。多くの人たちに発信する。自分自身の記録とするなど、目的や読み手に応じて形式や内容を工夫する。
- 探究的な学習の過程の明確化
研究の動機、目的、方法、結果、考察などについてまとめ、探究的な学習の過程や結果が明らかになるように工夫する。
- 国語単元 (調べたことを発表しよう) との関連

(2) 【実践例2】他学年との交流とお世話になった地域の人・保護者を招いた発表会を開く

ア 発表会までの流れ



【ポイント】

- 発表会を開く場合は、単元のはじめに発表会を開くことを知らせておくことと、上級生の発表を見ることにより、整理・分析の方法やまとめ・表現する時の参考にさせる。

<2年生に分かるように図に描いた事例>

はじめは、文章でまとめたけど、途中で図をかいたほうが分かりやすく伝えることができることに気づき、図と言葉で表した。

○発表会に招く人には、事前に招待状を書いたり、都合を聞いたり、感想アドバイスの依頼をしたりしておく。

<保護者への招待状例>

かがやきタイム
「おいしいものいっぱい、越谷」
学習発表会のお知らせ

月 日.....3月12日(金)
発表する時間.....3時間目と4時間目
発表する場所.....3年2組の教室
発表すること・「かもねぎなべ」材料のみみつ(題名)「かもねぎなべ」はおいしいよ
いっしょに発表する友達.....〇〇君と△△さん
おうちの人へひとこと.....「かもねぎなべ」

発表会に2年生や保護者や地域のお世話になった方々を招待することにより、目的意識や相手意識が生まれ、発表への意欲が高まった。

- 発表会を2回行うことにより、発表力が向上する。感想やアドバイスを生かしたり、友達の発表を聞いて自分の発表を見直したりする。
- 外部評価をしてもらうことで、自らのよい点や改善点に気づき、自信を深めたり次の探究活動への意欲を高めたりする。

イ 発表の工夫

<ペープサートで発表>



<模型を見せる発表>



<原稿を暗記して発表>



<協力して発表>



(3) 【実践例3】 振り返りカード、自己評価カードでまとめ・表現する

ア 振り返りカード

調べ活動 テーマ「おいしいものいっぱい越谷」

グループ名 () 3年 組 ()

1. 今日、どこで、何をしましたか。

2. 今日、調べたり、体験したり、話を聞いたりしたことをくわしく書こう。

情報収集活動時の
まとめ・表現

3. 調べたり、体験したり、話を聞いたりしたことで、大切だと思ったことは何ですか。

4. もっとくわしく調べたり、もう一度やりたいことは何ですか。

5. 今日、あなたががんばったことは、どんなことですか。

3年かがやき 「おいしいものいっぱい越谷」 月 日 ()

グループ 3年 組 ()

1. あなたは何について調べましたか？

2. 発表会で、あなたが伝えたかったことは何ですか。

発表会後の
まとめ・表現

3. 自分と友だちの発表から、「越谷のじまんの食べ物」は何だと思えますか？

4. 発表会で、あなたが、がんばったことはどんなことですか。

発表では

見学では

5. 今日の発表で、だれがどんなことを、がんばっていましたか？

活動ごとに振り返り、文章化することにより、自分の変容や成長を実感できるようにした。

【ポイント】

- これまでの学習活動の整理
これまでの学習活動などを文章で表現して整理することによって自分の気付きや考えをより明確にする。
- 新たな情報の整理
友達と交流し、発表内容から気付いたことなど、新たな情報を整理し、自己の考えと比較したり関連させたりする。
- 視点を明確化して考えを整理
自分の活動の振り返りや友達との交流を通して、「もっと知りたいこと」「やってみようこと」は何かなど、明確な視点をもって、自分の考えを整理する。
- 教科等との関連

イ 自己評価カード (単元全体の振り返り)

「かがやきタイム」学習のあしあとV

○先生や友だちといっしょにできた
◎自分ひとりでできた
☆自分ひとりですいすいできた

まとめ方・発表の仕方 (やったことすべてにつける)	1. 年 2	3年		4年		5年	6年
		前期	後期	前期	後期		
もろし 模造紙にまとめる							
え 絵やポスターに表す							
かみ 紙しばいに表す							
えほん 絵本に表す							
しんぶん 新聞に表す							
パンフレットやガイドブックに表す							
まきもの 巻物に表す							
ぶんぶん 作文・レポート・意見文を書く							
うた 詩やキャッチフレーズを書く							
カルタに表す							
ちず 地図に表す							
ひょう 表やグラフに表す							
ビデオレターに表す							
クイズを作る							
げき 劇・人形劇・ペープサートで表す							
パネルシアター・エプロンシアターにする							
ものをつくる(料理・服・模型など)							
プレゼンテーションを作る							
パンフレットを作る							
新聞を作る							
レポートや文章を書く							
地図に表す							
説明する							

単元全体の振り返りを記録に残すこともまとめ・表現であり、自分の良い点や成長などを実感し、自己の変容に気付けるようにする。

活動の様子を自己評価して、記号で記入させる。

「かがやきタイム」学習のあしあと I

学年	分野	テーマ	自分の課題		課題を選んだ理由 (3れる活動から、自分の生活から、教科の学習から)	
			自分	友達	自分	友達
3年前期						
3年後期						
4年前期						
4年後期						

「かがやきタイム」学習のあしあと VI

学年	学んだこと (調べたり体験したりして分かったこと)		自分の変化 次の学習に向けて思うこと	自己評価
	自分	友達		
3年前期				
3年後期				
4年前期				
4年後期				

自分の変容を、単元の導入と終末を比べながら記述させる。

【ポイント】

- 単元全体を振り返る工夫
探究的な学習の過程を振り返り、文章化することにより、自分の変容を実感できるようにする。その際、単元の導入と終末の変化を表現する。
- 学習活動の様子を記入
単元全体の学習活動の足跡がわかるように、実践した調べ方やまとめ方、かかった人、学んだこと等を記入する。
- 自己評価の工夫
自己評価しやすいように項目にあわせて、文章と記号を使い分けて記入する。

事例5 探究的な学習【言語活動の充実】話し合い活動を中心とした協同的な学びを通して課題を解決する力を育成する事例

【本実践例のポイント】

- 田の観察や体験活動を行ったときの個人の記録を活用した情報交換や学習の方向性を見いだすための話し合い活動を多く取り入れることで、言語活動の充実を図る。
- 話し合い活動では、板書やワークシートの工夫を図り個の考えをつないでいくことで、物事を様々な角度からとらえる力を育成できるようにする。

1 単元名 お米の向こうに見えるもの（70時間）第5学年

2 単元目標

幸手市行幸地区の田の観察や米の栽培活動を通して、米の生長の様子や田の環境を知ったり、田に携わる人々の思いを知ったりすることで、行幸地区に対する愛着をもち、米作りに対する自分の考えを深めることができる。

3 単元について

(1) 単元設定の理由

児童の身近な存在である田の観察やお米作りを行ったり、お米作りに携わる人と関わったりする学習を行う中で、友達と協力しながら課題を解決していくことで、行幸地区に対する自己の考えを深めることができると考え、本単元を設定した。

(2) 児童について

これまでの総合的な学習の時間の中で、情報を収集する力、調べたことをまとめてクラスや地域に発信する力を身に付けている。しかし、地域の方との継続的な関わりや地域のよさに目を向ける経験は少ない。また、探究の過程を通じた学習によって自己の考えを深める経験も少ない。本単元の学習を通して、探究的な学習過程の中で、話し合いやふり返りカードの記入などの言語活動を充実させることによって、自分の考えをもったり、友達の考えと比較したりしながら自分の考えを深められるようにしていきたい。

(3) 教材について

本校がある行幸地区は米作りが盛んな地区である。児童の生活と密接に関わる米を単元の学習教材にすることは、児童の学習意欲を高め、真剣な学びが展開されていくものと期待がもてる。そこで単元を計画していく上で、米の向こうに見せたいことについて次のように考えた。

一つ目は、米作りの中心である田との関わりを通して児童に田の存在を見せたい。児童は登下校の時や、日常生活の中で田を見てきている。しかし、それは田と密接に関わる故に無意識的な見方でしかない。無意識的に見ているものを意識的なものにする。そのためには、田に対して積極的に関わる必要がある。田に直接出向き、目で見て、耳で聞いて、鼻でにおいを感じて、手で触って、肌で感じていくという諸感覚を使った関わりをもつことで、児童は田の存在を日常生活の中でも意識するようになると思う。視覚的に見るだけではなく、体全体で田の存在を見るようにしていきたいと考える。

二つ目は、田との関わりを通して田に携わる人の存在を見せたい。田があるということはそこに田と関わる人がいる。児童が普段食している米は、どんな人が作りどんな思いで作っているのかについて田と関わる人を通して知ること、児童が米に対して今までもっていた情報を新たなものに更新していくようにしたいと考える。

三つ目は上記の二つを含めて、児童に行幸地区の存在を見せたいと考える。児童にとって生活の中心である行幸地区の存在について、田や米作りに携わる人との関わりを通して考えさせたい。そして米作りが盛んであることを実感し、行幸地区に対する愛着と誇りを育て、田園風景を原風景とした行幸地区＝ふるさとである、ということ児童の中に育んでいきたいと考える。

また、米は食すのみでなく、刈り取った稲をわらとして活用することや、田が気温の上昇を防ぐ役割があることなどを学習することを通して、環境に優しい存在であることも学ばせていきたい。

4 単元の評価規準

よりよく問題を解決する 資質や能力	学び方・ものの考え方	主体的・創造的・協同的 に取り組む態度	自己の生き方
①米作りの体験活動や米作りに携わる地域の人との関わりを通して、課題意識をもち、課題を設定しようとしている。 ②課題解決に向けて、探究活動に取り組もうとしている。	①自分が設定した課題の解決のための活動の見通しをもち、学習計画を立てることができる。 ②様々な方法で収集した情報について、必要な情報について整理分析することができる。	①実践してきたことや成果と課題などを相手や目的に応じて、分かりやすくまとめ伝えることができる。 ②友だちと交流し課題解決に取り組んでいる。	①活動を振り返り、自分のよさや成長に気付くことができる。 ②田に携わる方々との関わりを通して、自己の生き方について考えることができる。

総合的な
学習の時間

5 単元の指導計画・評価計画（70時間）

小単元	学習活動	具体的な言語活動	指導上の留意点
行幸地区の米作りについて考えよう (30)	○行幸地区とはどんなところなのか考える。 (課題の設定) ○田植えを行う。	・行幸地区について思い浮かぶことをあげていき、イメージマップを作成する。 ・体験したことの感想を書く。 ・体験で気付いたことを発表し合う。	・イメージマップを作成するときには、児童の発言を教師が分類する。 ・農家の方や市の農業振興課の方との連絡調整を行う。 ・体験後に、農家の方の話を聞く場面を設ける。 ・稲が枯れた原因について調べるときには、水・稲・土など調べる項目立てをして、情報収集がしやすくなるようにする。 ・集めた情報の整理分析を行い、次への活動につながるようにする。 ・JAや農家の方に連絡を取り、バケツ稲作りを行う環境を整える。 ・観察のまとめには、稲の本数や気温、湿度などの客観的なデータに加えて、土の感触など主観的な内容についても記録するようにする。 ・一人一人に活動のまとめを書かせ、それをもとに話し合いを行うようにする。
	【実践例1】 ○自分たちのミニ田んぼを作る。 ○稲が枯れてしまった原因について考える。 (情報の収集) (整理分析) ○バケツ稲作りの準備をする。 ・バケツの用意 ・稲の用意 ・土の準備	・ミニ田んぼに必要なものについて話し合う。 ・稲が枯れた原因について話し合う。 ・原因追及のために、JAの方などにインタビューをする。 ・収集した情報を集めて、原因について話し合う。 ・バケツ稲用のバケツや、土、稲をもらうために電話連絡などをする。 ・稲をいただいたお礼の手紙を書く。	
収穫祭の準備をしよう (25)	○新たな課題を設定する。 (課題設定) ○四つのグループでの調べ活動を行う。 (情報の収集) (整理分析) ・行幸地区の米作りの歴史 ・パーティー用の米料理 ・稲わらを使ったわら細工づくり ・パーティー用の歌づくり ○地域の方から情報を収集する。 (情報の収集) ○ゴッドセブンパーティーに向けての準備を行う。 (まとめ・表現) (情報の収集) (整理・分析)	・これまでの活動を振り返り、疑問に思ったことやさらに調べてみたいことなどについて話し合う。 ・ゴッドセブンパーティー（収穫祭）に向けての、課題別グループでの話し合いを行う。 ・収集した情報について、模造紙やドットマップなどにまとめ、教室に掲示して、各グループの活動状況を示す。 ・行幸地区で長年農家を営んできた方の話を聞く。 ・調べてきたことをもとに、パーティー用の米料理の試食会や、わら細工の鑑賞会を行い、良い点や改良点について話し合う。 ・クラス全員から出された改良点をもとに、グループごとに話し合う。	・これまでの活動の記録をもとに課題を見付けるようにする。 ・四つのグループでの調べ活動では、必ず専門的な知識をもつ方の話を聞く機会を設けて、自分たちの調べてきた内容について振り返る場面を設ける。 ・話を聞くときにメモを取らせる。 ・試食会や、鑑賞会を行い、クラス全員に進捗状況を示すとともに、米料理やわら細工グループの改良を促すようにする。
	【実践例2】 ○これまでの学習を振り返り、歌詞に込めたい言葉について話し合う。 (課題設定) (整理分析) ○地域の方に米作りの歌詞をプレゼントする。 (まとめ・表現)	・田の観察や田植えや稲刈り体験、一度失敗したバケツ稲作りを通して自分たちが思ったことや感じたことなどについて話し合う。 ・歌詞に入れたい内容について項目立てをする話し合いを行う。 ・具体的な歌詞の言葉について話し合う。	・歌詞に入れる言葉の内容として、「農家の方への感謝」「米作りを通して分かったこと」「行幸地区の米作り」という項目を決め、それぞれに見合った歌詞の言葉を考えるようにする。
収穫祭を開催しよう (15)	○ゴッドセブンパーティーを開催する。 (まとめ・表現) ○学習の振り返りを行う。 (まとめ・表現)	・一年間の学習を通して、自分が学んだこと、感じたこと、行幸地区の米作りについて考えたことなどをまとめる。	

6 実践例

(1) 【実践例1】 課題が設定されて、新たな活動につなげるための言語活動

(ミニ田んぼの失敗→原因の追究活動→バケツ稲作り)

田植え体験を終えたあと農家の人への質問の中で、「田植えで余った苗はどうするのか？」という質問があった。その回答は「捨ててしまう。」だった。児童は余った苗を使ってミニ田んぼを学校に作りたいと考えた。

学 習 活 動	具体的な言語活動
<ul style="list-style-type: none"> ミニ田んぼの作成 <p>↓</p> <p>一晩で苗が枯れてしまった！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ミニ田んぼに必要なものについて話し合う。 <p>土・・・学校にある黒土を使う。 (農家の人から土は黒土で大丈夫という話を聞いた。)</p> <p>水・・・毎日枯らさないようにする。 入れ物・・・学校のプラスチックケースを使う。 肥料・・・学校にあった鶏ふんを入れる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 苗が枯れた原因についての話し合い <p>↓</p> <p>詳しい人に聞いてみよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> 苗が枯れてしまった原因について話し合う。 <p>土が悪かったのかなあ？ 水がなくなってしまったからじゃないかな？ 苗が病気だったからだよ、きっと。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 苗が枯れてしまった原因の調査 <p>↓</p>	<ul style="list-style-type: none"> 苗が枯れてしまった原因の情報を収集する。 <p>JA や農家の方にインタビューをする。 本やインターネットで情報を集める。 自分のおじいちゃんやおばあちゃんに聞く。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 情報の整理分析 	<ul style="list-style-type: none"> 集めた情報を出し合い、情報の整理分析をする話し合いをする。 (話し合いの板書は下記参照)



(写真) ミニ田んぼづくりの様子

子どもたちは、自分たちが植えた苗が一晩で枯れてしまったという事実直面し、「なぜ枯れてしまったのか？」という率直な疑問をもった。これが、子どもたちにとって自分の課題となった。
自分たちで苗が枯れた原因について話し合ったが、自分たちでは解決できないことがわかり、詳しい人に聞く活動へとつながっていった。

(下図) 苗が枯れてしまった原因について収集した情報について整理分析した話し合いの板書

上記の話し合いによって、苗の枯れた原因と今後の活動の方向性を見いだした。

- ・ 苗を植える土には鶏ふんなどの肥料は入れない方がいい。
- ・ 田んぼを長くやってきた土には、苗に良い微生物が豊富にいる。
(行幸地区は、良い土が豊富 地力がある)
- ・ 稲を植えるためのバケツをJA からもらえる。
- ・ 長年田んぼをやってきて、今年も田植えをしていない田がある。
(おじいちゃんに確認をして、土をもらえそう)

JA からバケツをいただき、土は休耕田からいただき、バケツ稲作りをスタートさせた。

情報収集したことを話し合い活動によって全体に広め、様々な情報をつなぎ合わせていくことで、クラス全体の活動の方向性を見いだすことができた。

総合的な学習の時間

(2) 【実践例2】自分の考えが友だちの考えによって更新され、新たな考えを生み出すための言語活動

(地域の方へ贈る歌詞作り)

お世話になった方々へ学んだことを歌にして贈ることになった。歌詞作りの活動を行う前に、地域の方から行幸地区の米作りの歴史についての話を聞くことができた。

学 習 活 動	具体的な言語活動
<ul style="list-style-type: none"> 行幸地区の米作り話を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 行幸地区の米作りの話を聞きながらメモを取る。 行幸地区の田んぼマップ（右写真）に、話を聞いたあとに分かったことを書き込む。
<p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでに学習したことから歌詞に込めたい言葉話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 行幸地区はもともと畑作が中心であった。 行幸地区や周辺市町村に甚大な被害をもたらしたカスリーン台風で、利根川の堤防が決壊し、行幸地区の土壌が稲作に向いた（砂まじり）の土壌に変わっていった。 米の産地で全国的にも有名な新潟県の魚沼の方が、行幸地区のお米を食べたとき、「とてもおいしい」とほめてくれた。
<p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人が歌詞について考える 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りカードを書く。 どんな内容の歌詞にするかの話し合いを行う。
<p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞について話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 田植えや稲刈り、それから失敗したミニ田んぼなどで多くの方にお世話になったから、お礼の気持ちを込めたいなあ。 一年間自分たちが学んできたことを歌詞に込めたい。 行幸地区の米作りの特徴を入れたい。
<p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞を作る 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の話し合いの項目をもとに、どんな言葉を歌詞に入れたいか、一人一人が考え、ワークシートに記入する。 振り返りカードに書かれた内容を全員で共有化するために、教師が座席表にまとめて可視化を図る。 一人一人が考えた歌詞について、クラス全体で話し合いを行う。
	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いをもとに、歌詞を作る。



(写真) 行幸地区の田んぼマップ

ぼくは、田んぼの観察に出かけるといつも気になることがあります。それは、田んぼの土の感触がトロトロの中に、ザラザラがあったことです。ザラザラは砂だと思います。何で砂がまじっているのかずっとやんでいました。今日、直樹じいちゃん（農家の方）の話を聞いて、洪水によって砂まじりの土に変わったことを聞いてすごく納得してしまいました。あと、新潟県の魚沼の人に行幸のお米がおいしいとほめられたのを聞いて、うれしかったし、行幸を好きになりました。

(上) 地域の方の話を聞いたあとの振り返りカード

(下) 地域の方へ贈る歌の歌詞

歌詞作りの話し合いの中で、一人一人が自分の意見を出し合った。初めは、田植えや稲刈り体験、ミニ田んぼの失敗、収穫前に台風で稲穂が倒れてしまったことなど自分たちが経験してきたことを入れたいという意見が多かった。

話し合いが進むにつれて、以下のように自分の考えと友達が出した意見をつなぎ合わせる意見が多く出された。

- ・鶏ふんを入ただけで一晩で苗が枯れてしまった経験や、砂まじりの土壌によって行幸地区が稲作地帯に変わったことをつないで、「稲は土に敏感だ。」
- ・一年間お世話になった農家の方々はみな高齢の方であることとお世話になったことへの感謝の気持ち、さらに自分の生き方を交えて「将来の行幸米は私に任せて。」
- ・お米は食べるだけではなく脱穀したもみ殻は肥料に使えたり、稲はわら細工に使えたりすることから「稲には無駄がない。」

だいすきな行幸米

<p>1 広い広いみゆき地区 5月の風が吹く中で 私たちは田植えした</p> <p>足の指からあふれる泥 だんだんそれが心地よい 機械に負けない田植えかな</p>	<p>3 広い広いみゆき地区 おかし大洪水がきて みゆきの土が大変身</p> <p>トロトロの中にザラザラ 砂がまじった田の土は 魚沼に負けない米のもと</p>
<p>2 広い広いみゆき地区 あまった苗をいただいて ミニ田んぼ作りに挑戦だ</p> <p>一晩で全滅なぜなんだ 苗には鶏ふんみらないよ 稲は土に敏感なんだ</p>	<p>4 広い広いみゆき地区 私たちの周りでは いつも田んぼに風が吹く</p> <p>さらさらなひく稲たちは 農家の人の想いをもらい 今年も黄金の米になる</p>

地域の方の話を聞くことで、自分の考えが新たに更新された。さらに歌詞作りの話し合いを通して友達の考えを聞きながら、自分と友達の考えをつなぎ合わせて、新たな考えを更新していった。